

平成 29 年度事業計画（案）

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

I. 年度事業方針

今年度は、創設 80 周年記念事業の目的を具現化する事業の一環として、集客を意識した展覧会、講演などの開催と広報宣伝及びパブリシティ活動を通して広い層に民藝館をアピールすることで知名度や認知度を向上させていく事業計画とする。

II. 事業

1、展示活動及び調査研究と情報収集・提供に関する事業

1) 平成 29 年度開催の展覧会及び講演会

- ・春期特別展「江戸期の民藝 ―暮らしに息づく美―」

会期：平成 29 年 4 月 4 日（火）～6 月 18 日（日）

記念講演会「看板と川柳に見る江戸の暮し」 4 月 29 日（土） 18 時～19 時 30 分

講師 谷田有史（たばこと塩の博物館主任学芸員）

- ・夏期特別展「色絵の器 ―天啓赤絵・呉州赤絵・古伊万里赤絵―」

会期：平成 29 年 6 月 27 日（火）～8 月 27 日（日）

特別講演会 「染物について（仮）」 7 月上旬（土） 講師 古澤万千子（染色家）

- ・秋期特別展「ウィンザーチェア ―日本人が愛した英国の椅子―」

会期：平成 29 年 9 月 5 日（火）～11 月 23 日（水・祝）

記念講演会「日本におけるウィンザーチェアの製作について（仮）」

9 月中旬（土） 講師 池田素民（松本民芸家具常務取締役）

特別講演会「ロマネスク美術の魅力（仮）」

11 月上旬（土） 講師 金沢百枝（東海大学文学部ヨーロッパ文明学科教授）

- ・平成 29 年度 日本民藝館展 ―新作工藝公募展―

会期：平成 29 年 12 月 10 日（日）～12 月 23 日（土）

表彰式と講評会：日時 12 月 7 日（木）

- ・冬期特別展「棟方志功と柳宗悦」

会期：平成 30 年 1 月 11 日（水）～3 月 25 日（日）

記念講演会「棟方志功と柳宗悦 ―究極の師弟 その在り方―（仮）」

3 月 3 日（土） 18：00～19：30 講師 石井頼子（棟方志功研究・学芸員）

2) 調査・研究及び情報収集・提供に関する事業

- ・展覧会開催にあわせた調査研究による出版活動（高島屋「民藝の日本」展図録、「柳宗悦と棟方志功の往復書簡集」の制作、紅型資料の出版、及び柳宗悦録音テープ「東洋思想講座、1955 年」のデジタル化）
- ・日本民藝協会出版の月刊誌「民藝」への館展覧会に関わる企画制作の協力。
- ・関連機関（美術館・研究者等）との交流による、多様な情報の収集。

3) 資料・文献などの保存整備と活用

- ・所蔵品の保存状態を定期的に点検し、作品への防虫・防菌処理及び修復に必要な作品は適宜

措置を施す。

- ・文献資料・図書類のデータベース化の促進
- ・映像や画像、音声資料のアーカイブ化や、民藝運動フィルムアーカイブ制作委員会との連携

2. 民藝の普及・振興に関する事業

- 1) 各地の美術館及び他民藝館などとの共同企画及び所蔵品の館外貸出等による民藝の普及活動
 - ・日本民藝館企画展の巡回展の推進
 - ・館所蔵品等を各地の美術館等に貸出を行い民藝の普及や振興を実施
- 2) 各地美術館及び関係団体への講師・講演協力
 - ・日本民藝協会主催の催事及び美術館等への講師・講演を通し、民藝運動及び日本民藝館の活動をアピールし普及・推進させる。
- 3) 博物館実習生への現場教育の機会提供
 - ・博物館学芸員資格の習得を希望する学生に対し、大学からの学生受け入れなどを通じ、現場における知識・技能の習得を支援し、将来の美術館を担う人材の育成に協力する。
実習生数：約 15 人程度 実習期間：10 日間（講義 4 日、実務実習 6 日）
- 4) 「日本民藝館友の会・維持会」会員への情報提供
 - ・会員を主たる対象としたセミナー、見学会など定期的な開催を企画していく。
 - ・会員に情報「日本民藝館の特別展・記念講演・見学会の案内」を定期的に送付する。
- 5) 小学校を中心とする学校との連携による美術館教育などの教育普及活動
 - ・民藝の普及活動の一環として、小学生を主対象とした鑑賞教室などの企画・運営を行う。
- 6) 外郭団体との連携
 - ・他館との情報交換、近隣施設との活動の連携や開催事前案内、資料配布などの PR 強化
- 7) 国際文化交流に関する事業
 - ・海外における民藝運動研究への情報提供や共同調査・研究への参加
 - ・2019 年開催に向けた、北欧での民藝展開催のための準備

3. 民藝に携わる工人の育成及び協力・支援に関する事業

- ・日本民藝館展の開催(新作工芸公募展)
 - ①出展公募：新作工芸品の制作者および協力制作者を対象に作品を公募し、その選考を通して出品者を顕彰する。併せて講評会を実施し製作者の育成支援に協力する。
 - ②展示公開/即売：選考された優秀な作品を大展示室で展示公開する。また、入選作品の即売を通して作り手を支援し、世の中に優れた新作工芸品を普及させる。
 - ③制作品者を対象とする工芸講座（陶磁器部門）を実施し、収蔵品を活用して工人の育成を図る。

4. 広報活動の向上に関する事業など

- 1) 広報活動
 - ①ホームページ/facebook/有料ポスターによる情報の発信
展覧会や各種催事の情報について、ホームページやソーシャルメディアを活用し、また展覧会ポスターの電鉄構内を媒体とした掲出により、幅広い客層の獲得に向けた活動を継続的に展開する。
 - ②マスメディアの情報による集客強化
館の展覧会・催事について、TV、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット情報誌などのマスコ

ミ取材に積極的に対応し、情報提供の多様化を継続的に進める。

③日本民藝館を紹介するプロモーション映像を制作し、館の認知度や理解度を向上させていく。

2) 寄付・維持会員の募集活動（ファンドレイジング）の促進

・館創設 80 周年記念事業基金募金（3 ヶ年計画）活動に向けて、関連団体・会員及び個人（クラウドファンディングの活用）と CSR 活動を行う企業などへの理解促進を図ることにより、募金活動を促進していく。

・維持会員（法人・個人）の維持及び増強を図る。

以上